都名所圖會

平安城
角刺

一

日野
書林

[illegible]

[illegible]

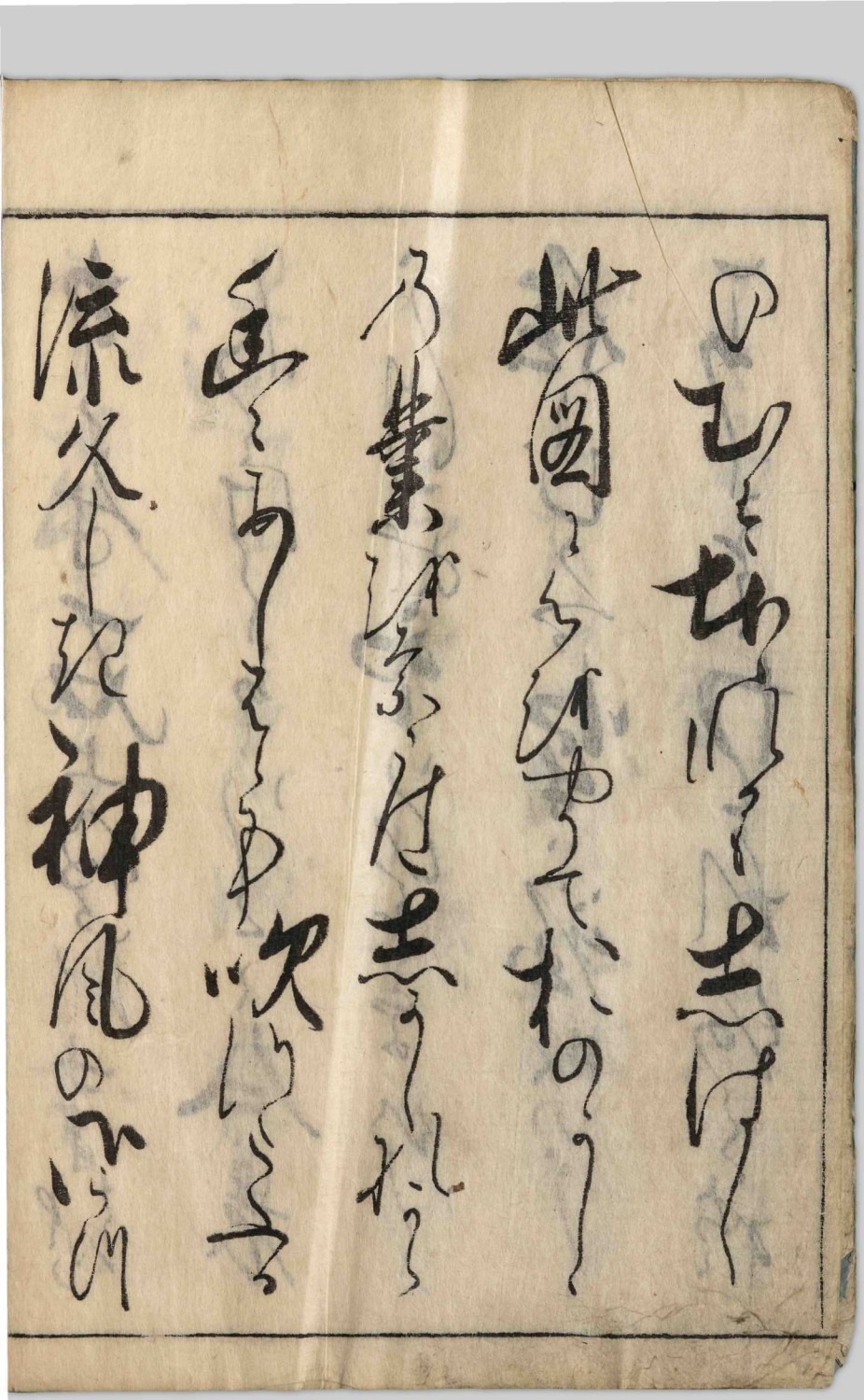
山川音のいしかるなり

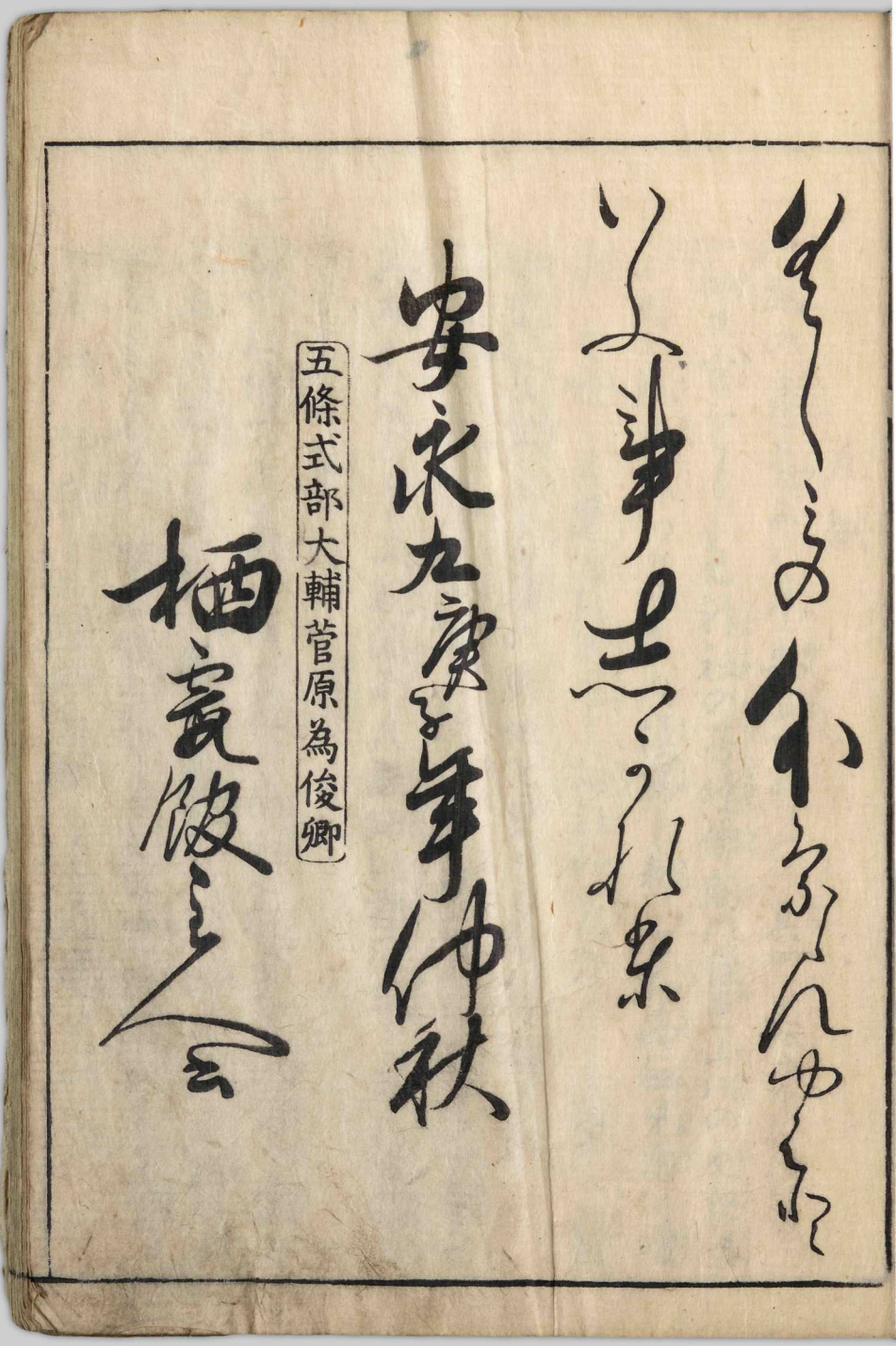
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]




安永九庚子年仲秋
五條式部大輔菅原為俊卿

三神屋紙大棟宮殿奉安殿

凡例

一 此編の巻首ハ平安城をあらハし其四方ハ帝ハ鎮護の四神ハ官ハ名社の芳境佛閣ハ佳邑山川の奇観を今時の風景ハかりのまゝ模寫し舊本花洛細見圖を増益して時々其遺漏ハ巡歴し拾社卅余ハ一字を加へ幼童ハ坐して古蹟の勝地を見るハ肝要なり

一 文談ハ宮古寺時記山城名所紀行を採り且舊記ハ委き其大意ハ考るし又脱漏あるハ微細に捜て求るハ撰書とする事ハ専なり

一 圖中に境地廣大なる所ハ悉く細画之狭少なる祠ハ堂を又ハ故ハ家毎に人物あり形容ハ小にして微少なる人物ハ其地廣大なる形容微少なるハ境地狭少なるゆゑ

加茂社と野宮との境地ハ知るべし

一圖中の間ゝ人物ゑ大画あり四時の佳致を賞して極楽の地を
知せんためん洛東の花見宇治蛍狩等ゝ
一圖中ゑ名所ゑ連綿の地なり圍乃上に系系と巡くあれを
繋く八幡神宮寺より宿院石清水あるゝい宇治乃橋ち
恵心院興聖寺かとの連綿の地ゝ
一比叡山の圖なり東塔坂本いゝ和近江ゝ志ゝ仁ゝ也西塔ゝ
連綿の地ゝて喰くゝと紙ゝだ山繪若紀者も橋別乃界
かゝとゝも主殿たゝしゝ志ゝ成圖を

都名所圖會巻之一目錄

平安城首

内裏圖　上御霊　中川　相國寺　定家ノ墓　法然水
京極八幡　幸神社　絲井　妙覺寺
妙蓮寺　妙顕寺　本法寺　千宗佐家
大應寺　後花園院陵　報恩寺　堀川　一条戻橋
小野小町草紙洗水　安倍清明社　水火天神　興聖寺
瑞光院　浅野家菩提塔　本隆寺　櫻葉宮　石像寺　家隆ノ墓
欽喜寺　石神社　聚楽亭旧地　般舟院　式子内親王塚　定家ノ塚　時雨の亭
西陣織物祠　澤福寺　太超寺　阿弥陀寺
十念寺　本滿寺　廬山寺　澤蓮院
下御霊　華堂　清荒神　高田本誓寺
妙滿寺　本能寺　信長墓　頂妙寺　源位頼政旧跡

高松神明社　西行水　御所八幡　天性寺

矢田地藏　生洲　三条橋　檀王

瑞泉寺　先斗町　六角堂 池坊　錦天神 千鳥池 塩竈社

圓福寺　蛸薬師　虎茶師　長金寺

腹帯地藏　泉式部塔 軒端梅　誓願寺 赤毛氏 羽二重井　柳の水

空也堂 糸釜責　神泉苑　不来薬師

畫工陳洲踐編地
騰仙翁不科勞跬
步帝畿在目中

和克明

内裏之圖

安陸樣御殿
番所
三反橋
下屋
對屋
記録所
内番所
清門
唐門
非人口
公家門
清涼殿
唐門
月花門

上御霊社
本社
宝蔵

住吉社記
君の代を
ちぢらん
しるべ
九京ふ
ちりく
八所
えめしむん
高雄

上御霊社と平安城鞍馬口通れ南にあり名る神八 早良親王 伊豫親王 藤原夫人 橘逸勢 藤原の廣嗣 吉備大臣 大伴神社

等の八所御霊なり朱雀院の御宇天慶二年に鎮定奉る八所此八上出る事

なり故に出雲語れば霊もまた例祭六月十八日 中御霊は藤原廣嗣の事なり 當社の御霊所なり

○早良親王八光仁帝第二の皇子なり延暦四年九月朝廷反傾奉らんと

議をなすべしと風聞あり淡路国に流遷し同国高瀬に至て絶食

して薨じぬ人怨霊崇祟なれば同十九年七月に崇道天皇の追號宣下

ぬ人なり 紀伊郡藤森神社 同神なり ○伊豫親王も崇道天皇の御子なり平城帝の御時

逆心あらんと川原寺に押籠て飲食を通ぜざる故なり ○藤原夫人八崇道天皇の

后吉子と號し伊豫親王の御母なり ○文屋宮田丸八承和十年十二月に謀反を企ん

て伊豆国に配流に成り ○橘逸勢八右中辨従五位下入居の子なり淡路帝の御宸

筆にて左朝二等の臣八なり仁明帝の御宇承和元年七月に謀反の事あり

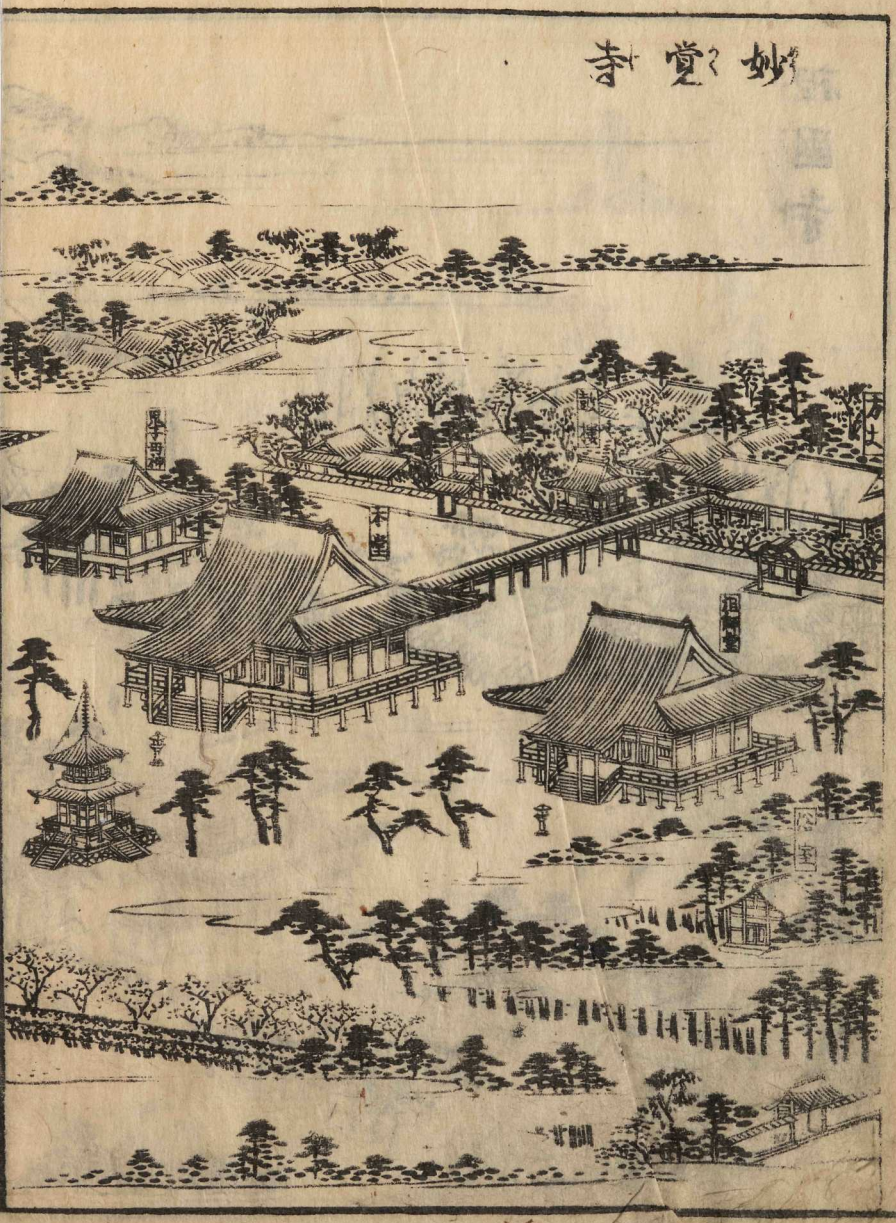
こもれも伊豆国に流罪せられ九月に死なり ○橘廣嗣も藤原宇合の第一子な

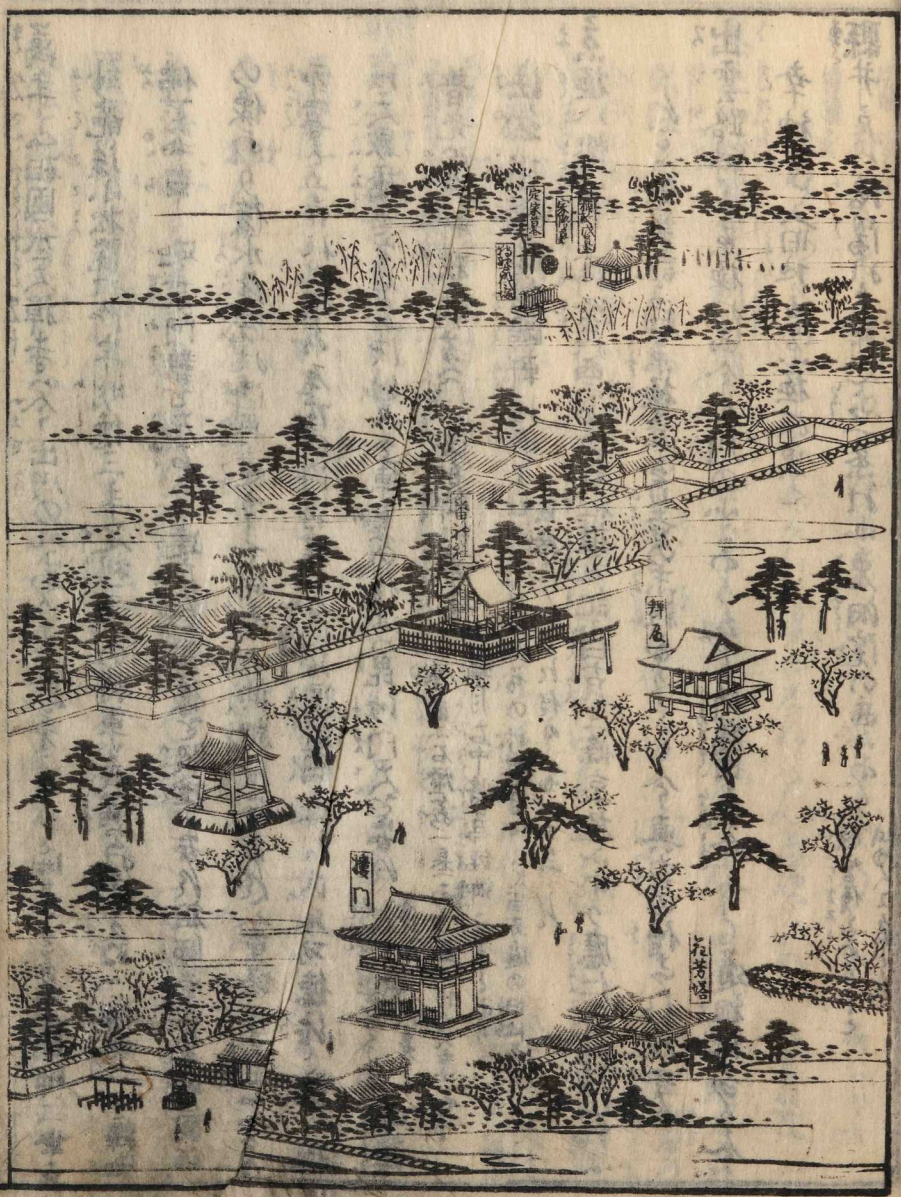
り大宰府に移りて叛逆あり しかべ大将東人宣旨を蒙り馳向ひて戦ひ 廣嗣敗北し

て自刀をもて首を落て其頭忽天に昇り空中にして赤鏡と成る人出てく
く帰死を豊後国鏡宮肥前国板櫃明神等に霊験はしまろ○吉備大
臣は右大臣正二位に至朝に無双の才人也正天皇に遣唐使に唐に渡て野馬臺
の文を読に成ぬ文議暁しく〻は朝初瀬の観世音を心中に念ず
其時蜘蛛くりて糸を引て教をれば容易のあり〻と天平五年に帰朝光
仁帝寶亀六年薨じ給ひ年八十二歳○大雷神は北野天満天神なり
観音堂は本尊聖徳太子の作にして聖観世音と見れば出家まれ本尊と
中川を上に霊れまんの流を〻人略川を新川と人桂川を西川と〻其中に川りしゆへ
は一名系極川とも號今は系極通寺院の筋に川あり薄塀中に中は系極
川なり是に堂殿と法成寺の間を流るゝを源氏巻に潜んで中川
みゆる空塚と墓をもこむのあり
山は〻るあらし水を堰入て本陸をゝ〻した中川は宿　光俊
仏教をるつの中川の大めさに流ふせるあ人せ放らん　宰真法師

佛殿
祖師堂
陸地

相國寺
塔頭
山門
八幡人宮


妙覚寺


拜殿
鐘楼
紅葉谷

萬年山相國承天禅寺八幡宮出川の北にあり五山第二にして開基を夢窓國師二世を
妙葩後小松院の御宇明徳三年足利二代の將軍義滿公の建立なり佛殿に釋迦
佛を安置し迦葉阿難を左右に連立人天の像を脇壇に安置し祖師堂に夢窓國師
の像あり後水尾院の御再建にして同帝の神牌を安置し三重塔を大日如來を
本尊とし又後水尾院の御再建に山門に圓通閣といひ仏功德作號塔
弘文界橋とるんぶけ多庫喜の像あり毘沙門天を安置
天驕いとをくして
本れ僧人多し塔頭
普光院は仏林あり芙門定家卿の墓あり　墓前に石燈籠一基あり銘に曰貞享三年
蜂月右中將為經卿建之とあり
法然水は塔頭松鶴軒にあり　法然上人あれ住ませ給へる所なり
京極八幡宮は上御靈の西にあり諸社根元記に曰古は三條京極にあり應仁の以後出れよ
りこと盛衰記に曰京極寺は白吉の末社なりしを今真言の僧とり仏守る
出雲路神は京極の西今出川の北にあり多の所領田畑命ありて通祖神なり今
幸神とい白地を京極の東と
縣井戸は洛陽の名所と古一条の小東洞院の西にあり　縣宮像にありしと

後撰 都人きてもおらるゝ桂ゐくあらそはるゝこの山風乃そよぐ　摘公平女

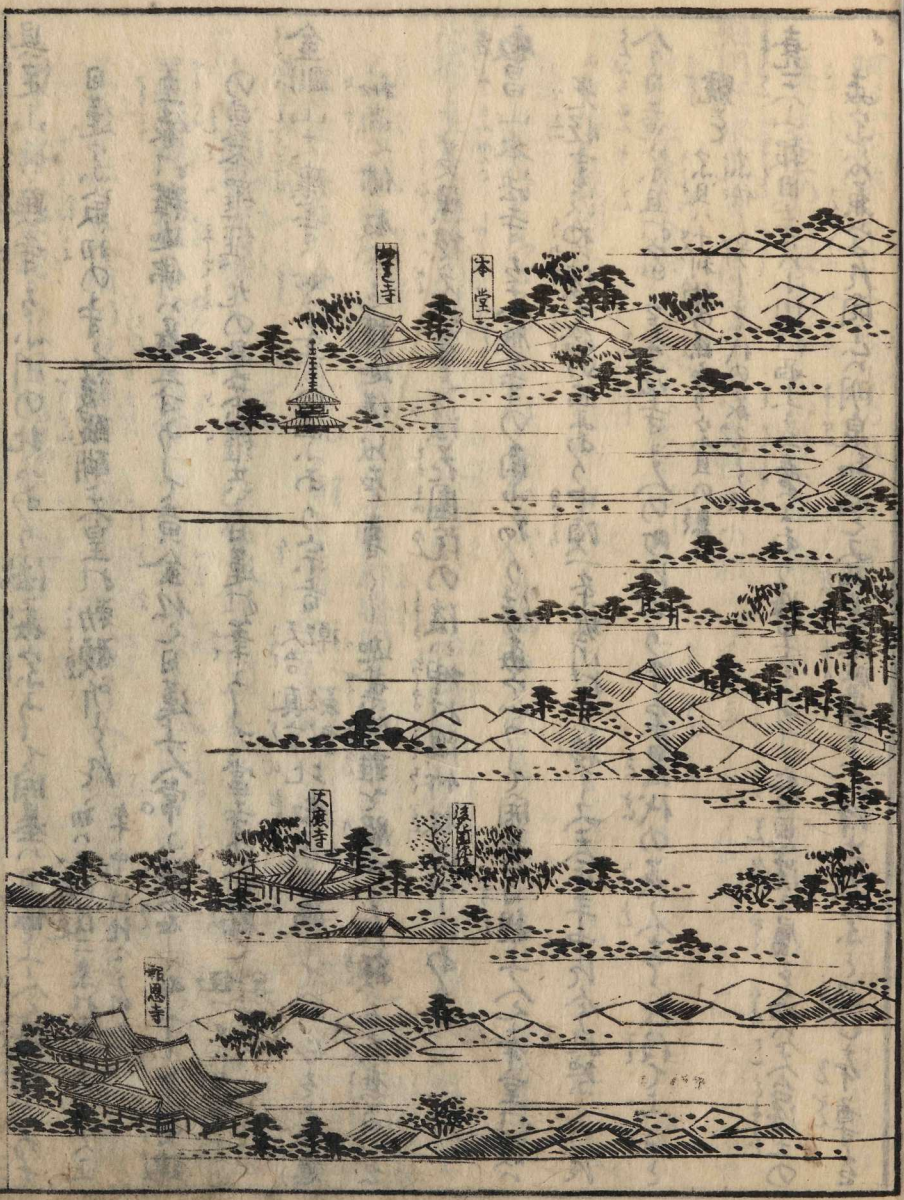
後撰 桂ゐくあらそこの井とふまゝにして咲や去あらそんこの花　後鳥羽院

具足山妙覚寺は新町頭ゐ法華宗にして開基は日實上人ゐり樓門の金剛力士は
弘法大師れ作之祖師堂ゐは日蓮日朗日像三師の像を安置れ堂宇乃
恰好比類ゐし諸堂　花芳塔ゐは日蓮自筆の法華経を収む紫印金乃曼
建立の規矩とん
茶羅角龍れ曼茶羅と共ニ日蓮の筆にして當寺れ什寶ゐり　ゐまくゐへを
あり　妙覚寺町　天正年中秀吉ハれ命ふりて此地ニうれを　三条元顕
又當寺ゐは西之将野古法眼元信真外将野家数代の墓あり
卯本山妙蓮寺と寺内通小川の西ゐあり右は京にして開基は日像上人ゐり古は
西洞院五条ゐあり柳原仲真とふもの日像を帰依して宅地を寄附し　柳
寺と称ん其後大宮通四条れ南ふうゐ之えゐ云頼寺通大宮に遷ニ正北四年
ゐ此地ゐ移と當寺の什寶に祈雨の本尊と七日蓮上人れ自筆法華経
羅ゐり後光厳院れ御宇ニ天下大ゐ旱ゐし本尊を以て桂川のほとりゐ引ゐり結壇
れ法を修せ　む忽霊験ありて大雨数日ゐ降ゐ故に日蓮上人ゐ大菩薩の號を賜る

妙法寺
三十番神
七面大明神
祖師堂

方丈
加洲利尤御
石宝塔
子安鬼子母神
本堂

本法寺
大應寺
報恩寺
妙蓮寺
千宗佐宅
本法寺
万木
本堂
番神社
西郷堂
千宗佐家


本堂
天寿寺
報恩寺

具足山妙顕寺と小川の北にあり法華宗にて開基は日像上人と洛陽に地をと
日蓮宗最初のまと後醍醐天皇の勅願所なり 初は西洞院二条の南にあり天正
年中山城に移る
立像の釋迦佛は長三寸にして黄金仏と日蓮上人常に持念し給ひしを蜀錦
の曼荼羅經一九の曼荼羅共に日蓮の筆にて當寺の什物 經一九は日像上人の
字あり
金剛山大應寺は妙心寺の西にあり宗旨 天台 真言 禅 浄土 比叡山に属して開山を虚應
和尚と佛殿に釋迦佛弘法尊〻 迦葉阿難を脇士とし額を大慈寺と
して炎硝焼失せし後花園院の後に坤に隅竹林の中にあり
叡昌山本法寺は大應寺の南少しにあり法華宗にて開基は日親上人 本堂に額は
光悦書 初は綾小路の西にあり中頃一条堀川に西に移る 天正年中に今の地に
今日菴宗旦に家を本法寺の町にあり千家累代の系図を伝て上流と
號す 宗旦は千利休の孫なり宗旦の息は
宗佐と号し代の家なり
堯天山報恩寺は小川に西上立売にあり浄土宗にて智恩院に属 初は大谷浄土の
真宗に兼学に開山は明泉和尚 又西蓮社慶譽上人浄土の一宗と改む本尊は

阿弥陀佛みて安阿弥の仕あり當寺の什物ふ虎の画あり四明陶俗ぬきたり
秀吉公の御聚楽亭ふありて夜ゝ聲を發ふ故ふ世人鳴虎く称ス
堀川ぬ水上ゝ二流あり其二ゝ鴨川の枝ゝて上京ゝ六人家の下を流れあるふ
那れ一条戻橋ぬ下ゝて合ゝ是を小川ゝ云ふ又一流い雲峯ゝり出て今宮社東を流れ
名を若狭川ゝ云ふ其ゝ戻橋ぬ下ゝて合一南へ流れ東寺を經て上鳥羽ゝ鴨川ゝ入
水上ゝ流れあてゝ川ゝ云ふ代ゝ名ゝ代ゝ名ゝ云ふ堀川の名　曽祢好忠
戻橋ゝ一条通堀川ぬ上ふあり安倍晴明十二神將を此橋下ふ鎮ゝ事を約ゝ御ハ喚ゝ
是を使ふ世の人吉凶ゝ此橋ゝて占ふ御ハ神將ゝ云ふ人ふ託ゝて告ゝ云ふ　源平盛衰記ゝ
二位殿一条堀川戻橋の下の瓜ゝ車ゝ乗ゝ出ゝ　中宮御産の時
吉凶ゝ向ゝ人ゝ云ふ
又三善清行死ゝ子ゝ浄蔵ゝ云ふ人
ゝ有ゝ熊野ゝ苦城ゝ出ゝ入洛ゝ此橋ゝ通ゝ父の喪送ふ遇ふ車ゝ止て橋上ゝ
置肝膽ゝ摧き念珠ゝ揉ふ小の神祇ゝ祷ゝ逐ふ呪力陀羅尼ゝ徳ふ仰て閻羅
王界ふ徹ゝ一人清行忽蘇生ゝ浄蔵涙ゝ揮て父ゝ抱き家ゝ帰ゝ
けゝ世人戻橋ゝ人足洛陽ゝ名橋ゝ

一條戻橋
やまーろれ
ろーろう橋反
いけく
みを
帰ろ
ろ
反れの
ろ
ろーろう
橋ろハ
人の
いろーん
和泉式部

皆礼の裏入
さの格紙を
米嫁ゝる格
の名をかりて
ゆりゝ旅を
人をの紙
貸附通りを
ゆれる反を
くゝつゝぎ
辰巳

小野小町雙紙洗の水と戻橋の良諸侯屋敷ふあり清和水とて（儀ふ
小町塔あり晴明水（此所ふあり安陪晴明密法行ひ給ふ神ふなる為ん為）下り松
（此所ふあり一条の下り松ハ是なり
故より世ふ名ゑるし
安陪晴明社と一条の西蔭屋町晴明町ふあり多ク所ハ晴明が霊神と
古き比晴明ふ居館ありしと
水火天神ハ堀川れ小天神の辻ふあり多ク所水火れ霊神なりしと（一説ふハ天満天神なりと
瑞光院ハ安居院れ小ふあり むしハ後鳥羽帝の第宅と鎮守れ神なり後鳥羽
稲荷と称し播州布穂城主法妙内匠頭長矩其外家臣の塔一基あり
大石内蔵ふ良雄を始
義士四十六人れ姓名を記
当院れ什物ふ内蔵れ画像辞世の詩歌書翰等ふあり
恵光山本隆寺と又辻の小ふあり法華宗ふて開基ハ日真上人と題目の
石塔と日像上人れ筆
当寺ハ四条の西ふあり中頃西陣ふうつし
聚楽亭造営の時今の地ふうつし
撫菓宮と出水通千本れ東ふあり多ク所天照太神ふむう右近馬場ふ
天降ると人ゆ日隆の神明と称し

水火天神
瑞光院
瑞光院
天神宮

石像寺
宝筐塔
定朝塔
方丈
石地蔵

家隆山石像寺と千本通五辻の少あり浄土宗にして本尊阿弥陀佛を
菅公の御作なり地蔵堂ハ弘法大師の作なり之像にて石地蔵あり信仰
あり霊験いちじるし石像寺　前上総介藤原朝臣家隆卿の塔あり
の号ありくり出し
北向山歓喜寺ハ上京黄の西にあり真言宗にして本尊歓喜天を弘法
大師の作なり當寺を淀城帝の勅願所にして開基ハ弘法大師なり
石神社を祭歓喜寺の西にあり所長六尺ばかり巖石なり土蔵の中に安
置せり舊き大内裏の境内なり
聚楽亭ハ旧地を二条の南二条の北にして東ハ大宮を限り西ハ朱雀通今ハ千本通
城壕ハ大閤秀吉公天正十二年に城郭を築き壮麗なりしかハ威を重ね
本丸ハ殿閣ハ七宝を鏤め名木奇石多つ秦の阿房宮前漢の未央宮
なりと雖ども寶閣ハ文禄四年四月行幸ありて和歌御會ありし
其後関白秀次公ハ文禄四年の滅亡なり樓閣ハ寺院
ありて今ハ聚楽の名ハ遺り町名ハ名のみ　聚楽組と唱る町数
九百二十町あり

般舟院

時雨亭旧地
式子内親王墓
定家社子
本堂
護摩堂

西陣は町小路あいうしへくり
そろくの呉服織出をする
際限なし　金襴錦唐織の
るいるゐこれをうつす紙織人を
そゝ掛い真地紋を紙小圖し
竪横小糸にぬく勘紙引花
丑い糸数何かゞく定め
真織物の機組ゝ白
き糸ゝ十分一乃
雛形を拵るあの足を
求めるなくしく糸
配してさゆくの地紋
ある所紙織出ゝこゝ
久ばけて高機ゝ

錦織
躰

天鵞絨を針金筋入て織之
故天鵞絨の真
針金れ深沉
天鵞絨

般舟三昧院ハ今出川通糸屋町の西ふあり宗旨天台真言律浄土兼学ふして
禁裏内道場と称し開山を恵篤上人ハ善空と號し字ハ敬川諡ハ圓慈
和尚と云本尊ハ阿弥陀佛れ坐像ふして慈覺大師れ作り帝王歴代乃
神牌ハ安置れ後土御門院れ御塔ハ本堂の西ふあり式子内親王の墓
當寺ふあり定家葛れ墳と云むり（山城定家卿の別荘ふり門前の辻子ハ定家の辻子と云ふ當院初ふ伏見里指月ふあり文禄二年比地ふ移ふ）
恵照山法福寺ハ一条れ西ふあり浄土宗ふして智恩院ふ属れ本尊阿弥陀佛
ハ弘法大師れ作り開基を弘蓮社深譽上人本堂の額を法福寺
と書して後京良院の宸筆ふり
安穏山大超寺ハ法福寺れ西ふあり右ハ宗ふして本尊阿弥陀佛ハ恵心僧都
伊勢太神宮ふ一七日参籠しふれ阿弥陀の二尊空中ふ現ふ人列其
尊形を摸して三尊を拝ふり其御化人ふて共ふ作り故ふ世人神明の御作と云
西陣と云ハ明徳れ頃ふ名細川れ両執権治中ふ和ふて敵対合戦ふり対塩川の西
一条より北ふを西陣と云塩川より南を東陣と云ふ

委ハ應仁記ふあり

淨福寺
大超寺
大超寺
本堂

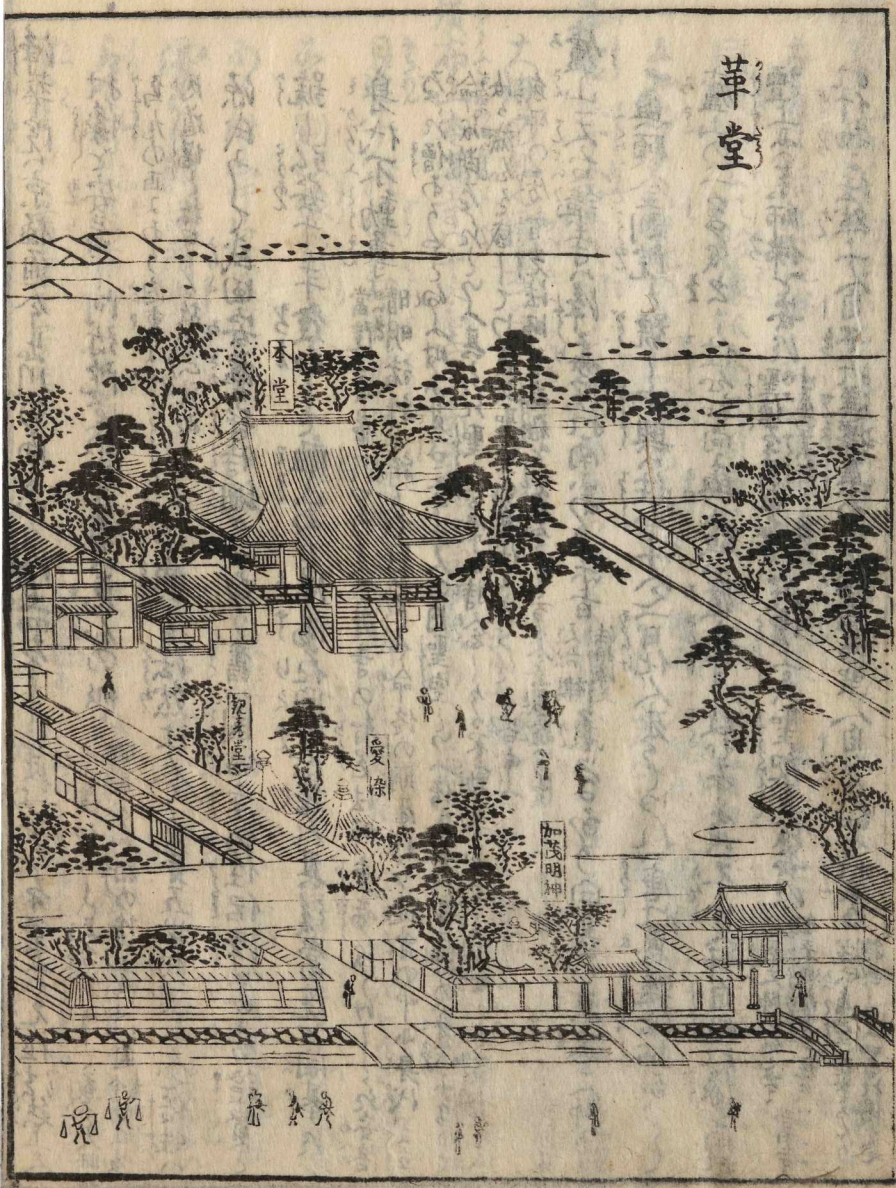
廬山寺
庫裏
本堂
三之水仕井
荒神
山王
金神

浄華院
庫裏
本堂
方丈
阿弥陀堂
泣不動

蓮華山阿弥陀寺ハ京極通被馬口ノ南ニあり浄土宗ニして百万遍ニ属ス
本尊の阿弥陀佛ハ弘法大師の作ニ開基ハ清玉上人ナリ又ハ織田信長公
同信忠公ノ影像ハ安倍同兩公ノ墳墓外明智光秀ノ叛逆ノ時本能寺
ニ於テ討死の長敦輩の墓あり 清玉上人信長公ノ寵ナリケ
ラレシ人ニ所ニ葬ル
華宮山十念寺ハ阿弥陀寺の南ニ隣リ右ハ宗ニして本尊ハ阿弥陀佛ニ弘法
大師の作ニ開基ハ真阿上人 永享十二年七月二日ニ寂シ遺命ニヨリ多羽川ニ
水葬ス年六十六後村上帝の裔孫ナリ
廣布山本満寺ハ十念寺の南ニあり法華宗ニして開基ハ日秀上人ニ祖師堂
日蓮上人ノ像ハ初丹波國黒田村ニあり所の人熱病ニ発して死ントスルモノ
あれ則ち像の崇ニ依リテ櫃ニ入て山中ニ捨テ去リ星霜累リテ朽ル
あり村人山中ニ讀經ノ聲あり村民ヲシテ探ラシムルニ入て窺ヒ見ル尊像ニ
得タリ則同所生福寺ニ安置ス其後宇津宮心覺ト云モノあり依奉ル
ヲ都ニ登リ市中ニ住ス本寺の日重上人ヲシテ高祖の像ヲ造ル遠ク
買ヒ求ル當寺ニ安置セリ 祈願ニ霊験あり当宗の門徒常ニ参詣ス
此ハ三大師の像ニ新著聞集ニ載リタリ

浄華院は京極通今出川の南にあり浄土四本寺の其一なり本堂は元祖法然上人
の像を安置し阿弥陀堂の本尊は恵心の作なり（当院は天台宗にして慈覚大師の開基なり）初の住は上人の通称の上人者則
鳥丸の西にあり内裏に近くまします故に中興を法然上人なり俗姓は
内道場と称せらるる故に公號あり
源氏にして武田安義守時綱の子なり舊は園城寺の住侶浄蓮房證賢と
號し弘安十年登仙して離山あり洛陽花開院に隠れ其後當院を開基せ
身代不動尊（當院は安置せり）（三井寺の稲光法師重病なりけるに安倍
晴明諸神に祈りて日を延べ命終の期至れり徒弟の中に身代に立
て僧あり（命に代りて）此時小身子二十二人の内聖空と云人俗出家にして師の身代に立て
命に断ずるに其人に聖空常に持念せる不動尊を中に示現して宣へり
故に聖空を感じて聖空の身代に立べしと告げ
給師の房智光法師も病死を免れ今なを存命なり今小多強に居
廬山天台講寺は浄蓮院の南にあり宗旨天台律法相浄土兼学なり開基は恵心師
にして興願金剛院と號し中興は住侶十人之一日化人なりしは唐の恵遠法師なり
廬山の一宗の祖にして住侶和尚と興して故に廬山寺と改む本尊は元三大師自作の像南北
壇上は祖師佛と安置（聖像は慈覚の作）此壇上は聖記なる故安置（信教大師の作）小原の某師と称す（船来迎記なる故）（當寺
は北六角堂観世音菩薩の霊像なり）
其外什物は法然上人自筆の選擇集あり又親鸞聖人自筆の四句の文

華堂



下御霊社
宝蔵
いろう社
月山
あさひ
八幡
とうとう
侍部

下御霊社は京極通春日今出川の南にあり祭る神は所れ御霊なり上御霊

同神なり八所の神名は上に記るに例条は観音堂社内にあり洛陽紀巡りの第六番なり

上御霊と同日祭り

行願寺は下御霊の南に隣る一名鞏堂天台宗にして本尊十一面千手観音

八人の立像行圓上人の作なり西國第十九番の巡礼所又加茂明神の石塔五輪の洛陽巡りの第四番なり

して高さ丈余あり塔あり當寺の開基行圓上人は原鎮西の人なり寛弘

名居あり行圓上人は[illegible]

二年に白王城に遊び頭に賓冠をいただき身には革服を着せる西人

都れ人革上人と呼て行圓は千手大悲陀羅尼を持し良材を求め

刻まるの像を彫刻人事を頼へりある夜の夢に老人れ沙門来り霊木を送る

しかして覚め翌朝果して一僧来り告る曰ふ鴨社れ倩ふ若樹ありと

椙樹あり六齊日毎に千手れ神呪を誦する聞へ聞へ暗に神宮

されて樹下に天降りるものあり則行圓に仏を彫るべし求免則神宮にたうけ

菩薩の像を刻きざみ行願寺を営て安置たれ當寺の本尊なり

又行圓革服を常に着る人は寺を革堂と称る其後行圓の

弟子仁弘法師に餘材を以て八尺の像を作り西山良峯寺に安置す
當寺初は二條通新町の西にあり故に二條華堂と云
清荒神社は京極の東荒神口にあり寺の所は面八臂の荒神なり初め拾別
勝尾山清水鎮坐の後陽成院勅願ありて文禄年中五條坊門油小路の
西にあり其後北國に近くして此地に移さる　古は此辺より近江湯の口に
宮勅願寺より荒神口と呼ぶ
本誓寺は河原町二條の北にあり宗旨は親鸞聖人の弘法なりて高田派と
本尊阿弥陀佛は惠心の作なりて初は宇治惠心院にあり本堂は
秀吉公北の政所の化粧殿堂内の画は狩野永徳が筆なり
妙塔山妙滿寺は京極通二条の南にあり法華宗なりて開基は日什上人
なり永徳二年五月に建立なり其地は後小路堀川の西にあり　今は妙滿寺町
道成寺鐘當寺にあり紀州日高道成寺の産なり銘あり兵乱によりて伽藍悉
禄の後所々に散ず　慶長天正十六年五月の紀州新宮の某寺より新
附と然れども撞ありて響を聞く事なし故に産所に鑄返さんとて碎んとすれども大
変動して産より火出る奥僧あれども驚て止る故に止て新に産所に鑄かえる則此産を堂
内に藏む初は龍頭の下にあり後陽成院の時堂内にあり
あるが次第に愈て今は平なり
中川の井　七井の中なり

妙満寺
本堂
方丈
番神堂
中川井
祖師堂

本能寺は京極通押小路の南あり法華宗にして勝劣派なり古は妙顕寺の塔頭なりしが
日像上人より四世日齊上人開基は日隆上人初の地は六角の南油小路の東に
勝劣の二派なし興隆
あり今本能寺町中興権大僧都日與上人紙波集と云ふ和語の書籍著す
方丈の前の門は聚樂城なりあとに移る物名義あり三十番神社は原
愛宕山権現の古社なり元亨年中に建立なるし織田信長公墓本堂の南にあり天正十年六月二日
為に自殺を委へ給へ宗祖日蓮上人の等身表具を紺地の紙にふ書写の色紙
信長記に見えたり題目曼陀羅あり世に本能寺切と云ふ
聞法山頂妙寺は二條橋東北小二町にあり石門宗一致派にして開基は日祝上人
なり権大僧都法印にして姓は千葉氏下総國千葉郡の人永正十年四月
十二日寂す年八十七當寺樓門の二天を持國天西は多門天にして運慶
安阿弥の両仏と霊験新にして常に諸人絶ず樓門の前に二天の祥殿あり
細川治部少輔源勝益寺地を寄附して頂妙寺と号を初の地を新町通
鷹司町今は下長者町なり ふあり其後中御門今は禁裏の小高倉御所の旧地ふくを
天正の末に此地に遷る

本能寺
開山堂
信長墳
祖師堂
三十番神
水ため
要石神
水ため

方丈
本堂

高田
専修寺御坊
本堂

源三位頼政の旧蹟は大炊御門今の竹屋町　京極より西にあり

家集　二月のはじめつかたの花もまだしかりけるを

はるかなる梅がえもとめてこのうへにのぼりて

はるばるとくりけるかなうぐひすのこゑにむかひてひとりあるあるじ梅のこずえのもとに

咲ぬかどにあるじのこゑ人は遠花とはなる

君のためむかふれば梅はさかぬるかなりしとうしとて花奉れ　頼政

[illegible]

高松神明は姉小路新町より西にあり此地は白河院の帝長日守師行の[illegible]

の内裏を造らしめ　当社は内裏の旧跡なり今社僧なり法華寺　神明寺　寶性院と號す

西行水は三條坊門室町の東にあり　洛中の名水なり西行上人は此地に住居　此井は楊枝を以て咲出したりとぞ

曼陀羅山天性寺は京極より二條にあり浄土宗にして本尊阿弥陀佛は恵心の

作なり　織姫観音　中将姫は観世音の化身なり　中将姫の像　自作なり　本堂に安置

故に此像を作りて名とす

矢田地蔵は天性寺の南に隣る浄土宗にして本尊地蔵は満願上人の

作なり　夕息薬師　本堂に安置

生洲

生洲とハ高瀬川筋三條の
小橋の川辺に構ふたりひろ
ろとした魚多く料理する者とりて
あり酒肴を商人主樽を巻に盛せ
鱗も花鞘ゲ千里をとゝ人雑も包ち
川辺ハ洲こ僂ゞ祇園に客招
きんぢゝ三弦の音曲を楽にもつ
ん所の娘くるんつ伝人伝

顯妙寺
相模國
本堂
方丈
祖師堂
大黒天

厚木母作
二天の
二天門

三條橋を東國より平安城に至る喉口なり貴賤の往人常に多くして皇州
の繁花に比橋上にこそ欄干に紫銅の擬寶珠十八本ありて悉
銘を刻其銘に曰 洛陽三條の橋至後代化度往還人盤石之礎入地
五尋切石之柱六十三本蓋於日域石柱濫觴乎 天正十八年庚寅正月
日豊臣秀吉之御代奉增田右衛門尉長盛造之

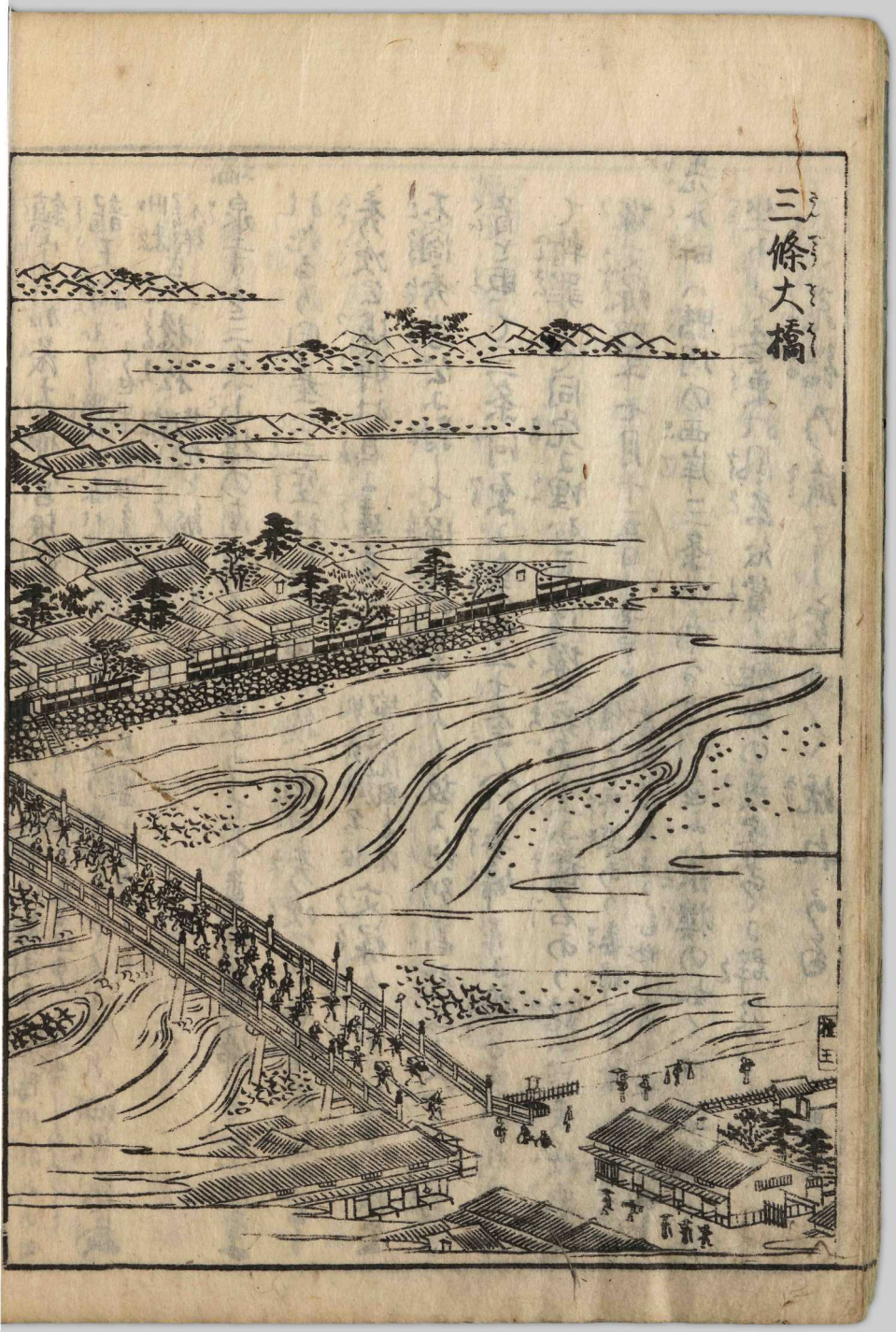
檀王法輪寺を三條橋東に あり 俗土宗にて本尊阿弥陀佛 恵心僧都の
古に悟真寺と號して良忠上人代より道光法師建立を應仁の乱後荒廢に
及ぶ慶長年中伏見中上人再建ありて梅檀王院と号ず 今略して檀王と呼ぶ
又條橋東に隱居して袋中庵 主夜神祠を開基伏見中上人の勅諚之縁起に曰
と称ず今尼僧持之
慶長八年三月十五日伏見中上人別行に入て会仏の夢を見給ふて朱衣に
青袍を着て光明の中に居し上人に告て曰 汝は華厳經に説給ひ婆珊
婆演底主夜神と專修念佛の行者を擁護すべし 則秘密伝授の事を
應驗新にして常に信人多し 慶長以来は當寺寶藏にあり 近年今れ堂に鎮坐ス
者居を石柱にして額を右栖川親仁親王の筆なり

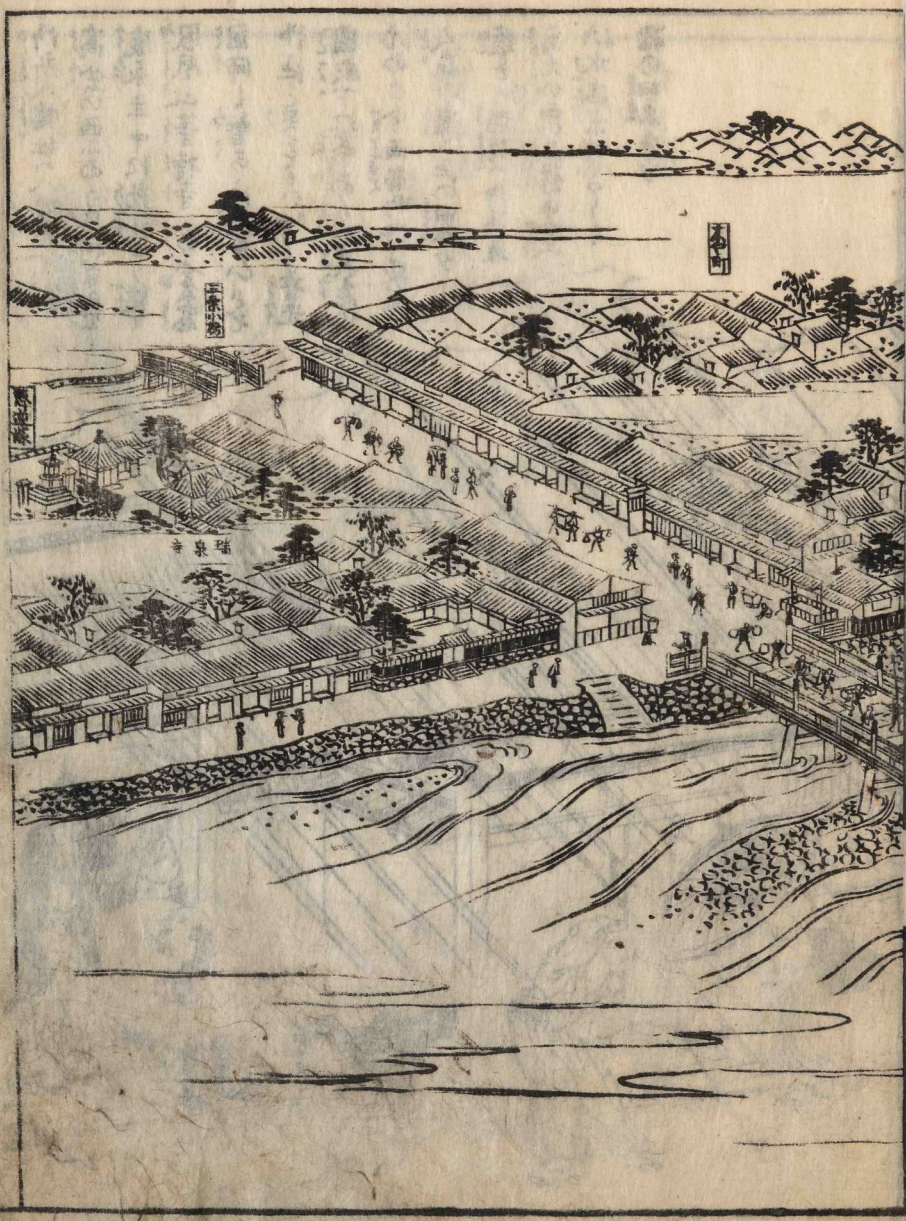
鎮守ハ加茂左神宮坂ある當寺建立の節の鎮護なり古鴨川流れの
龍王祠むし鴨川の東れ岸ニ大きなる淵あり悪蛇ありて人を害ス油習池藏
田表不詳二株松 [illegible] 上人修法三所 [illegible] 現を勉[illegible]

瑞泉寺ハ三条小橋の南ある浄土宗にして本尊阿弥陀佛ハ聖徳太
子作なり開基ハ三空桂叔和尚本願ハ関白秀次公の母堂瑞龍院なり
秀次公追悼ハ為ニ建立しなり 則秀次公位牌泉院殿と号ス 文禄年中に秀次公
左衛門秀吉公ニ対して逆心ハ企あるし故ニ紀州高野ニ入て自殺を
首と取て三条河原ニ梟ス二十余人ハ妾婦并ニ雑子ニ至ル所ニ迄
て斬罪して同穴ニ埋む其後塚を築て上ニ截石あり銘ニ曰秀次悪逆
塚文禄四年七月十五日と書と 傍ニ石塔婆あり妾婦二十余人の墳なり 悲法多仏ニ[illegible]世ニ畜生塚と云ハ眼なり
先斗町ハ鴨川の西岸三条の南なり川魚ハ水楼の如く軒端ニ[illegible]
坐して洛東ハ風景ニ賞し酣歌の英客ニ群ス

花結乃底ニ玄ゆく流れうき

鬼貫


三條大橋


本町
三番町
馬場
瑞泉寺

所八幡社八幡町一名
高倉の西ふあり足利尊氏公
康永年中に勅請せり鶴を
鳳凰山等持寺ふ
国師も暫あ
と呼ぶそろハひ
園殿下の亭あり
沈あり今兩替町
人家の裏ふ
遺ぎり
鳥丸の西の石橋
水亭ふ
橋の旧名なり

夕立や
法義
のけゞ
阿弥陀
堂
其角

六角堂
天満宮
庚申
唐崎社
紅葉
淺堂

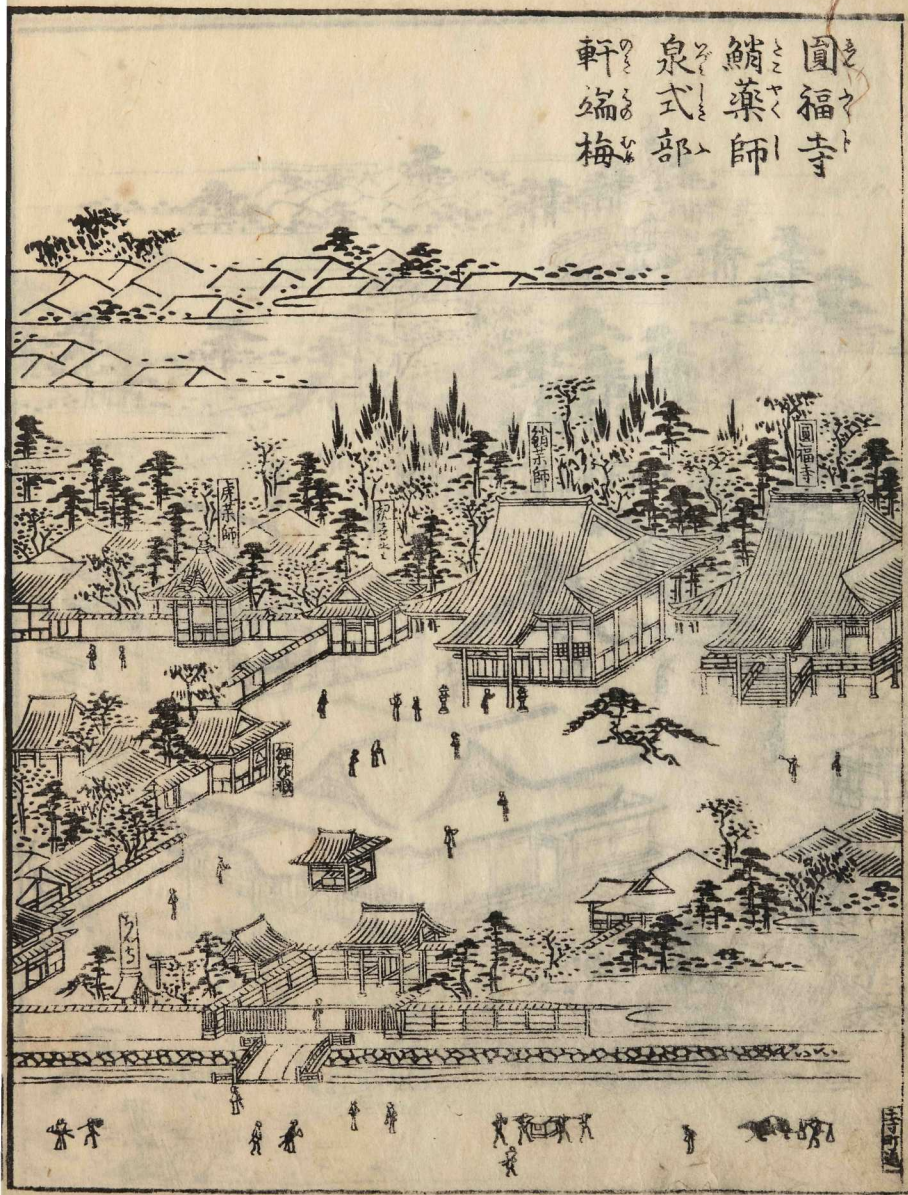
住心院
池の坊
太子堂
役行者
本堂
地蔵院
虚空蔵
大聖院
大知明王
石不動
不動堂

六角堂頂法寺ハ六角通烏丸通のしんぐしゐ天台宗にて開基ハ
聖徳太子なり本尊如意輪観音ハ金像にて長一寸八歩之西国十八番巡礼所洛陽巡の
三十番札所尊像ともに洛西西岩屋浦に漁人あしをあら
しゐ網をあらふに朱れ唐櫃拾得せり其櫃の上に正覚如意輪乃
像一粒珠上日本国之王家と云せりよりて国裏に敬ふなる早くより
ゐして是を我前生七世の持尊なりと尊崇し常に随身しゐ
時に摂別四天王寺を造んとて材木を所に求る其頃此所を山城折田
郷土車里といふなる山を伐倒しまに来り清水に澡ぐんとせしに
槲樹ふりけ垂浴せしに像を彫ゐ入れて重くなれ離るる事なし其夜乃
夢に本尊告て曰我なるのなれ持せしる事七世今又此地に因縁あり願ハ
あらんなりと永衆生を利益せんと宣ふ翌朝東方より一人の老嫗来て
曰此傍に大木の枝あり毎朝紫雲を覆て是こそ霊材なりと云ふ是
をうけるし刻きしゐ仏木一株に交じ六角堂を営む其後二百又十餘

歳を経て桓武天皇都城をこの定さるゝ所に宮殿條路を極むるに八角堂小
路の中央當まる皆是城郭しらべ立る建立精舍後世所に移さんるへ
ゝ法しらしめ俄に黒雲下りて八堂自五丈斗小のこかふ混り故ふ事ゆゑく
小路城通して都とるゝふゝり一説に高麗國光明寺ふ立り尊像なり弘法の國
池坊に立花の僧徒御迎て左るに敬しくもつて
當坊住職の中專慶法師立花受し奥之奥のと食所ゝ
感しあい立花の秘密を悉く授の又ゝ
弘法中興之祖
嘉永七月十日二星ゝ命して都鄙の人方ふ多ゝ立花の立てあるこの法人祥と
錦天神社に系極錦小路東約當ふ所天滿天神と鳥居れ額に天滿宮と
書て青蓮院尊英法親王れ筆之拜殿の額に寶鈴ふ宮理ふ尼公の業ゝ
宗旨に時宗ふ入て紫苔山歡喜光寺河原院に條道場と號し開基一遍上人の
甥聖戒上人之在ゝ二年二月十日寂に當寺の旧地に東に條本願寺の
建立ふ
千鳥社當寺庫裏の後ふ有り
塩竈社河原院ふ有り
祇當社に寺内の鎮守みして古に大長融公ふ勧請しゝ
天滿宮ふ勧請しゝ

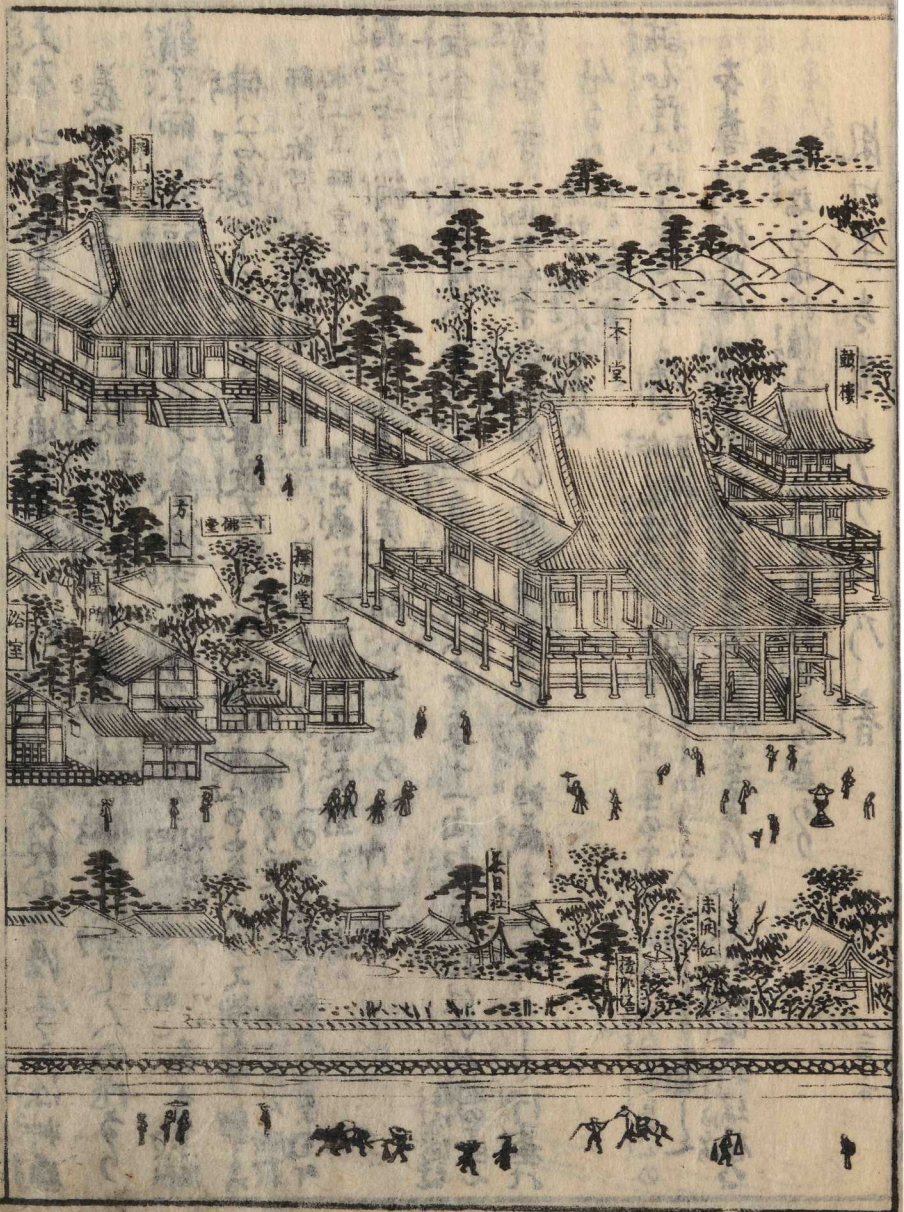
錦天神

本社
大日堂


圓福寺
鯖薬師
泉式部
軒端梅
鯖薬師
圓福寺
康薬師
泉式部
軒端梅

泉涌寺
軒端梅
本堂
要池
役行者
上言堂
清水寺

誓願寺
地蔵堂
地蔵
赤岡紅


本堂
鐘楼
方丈
三十三間堂
浴室
赤面仏
赤面仏

大本山圓福寺は京極通四条坊門（今は端茶師通と云）より東にあり淳土宗浄土門
義の（本寺）にて（室町三条坊門）にあり今圓福寺町と云　本尊阿弥陀佛は法然上人の作なり
鶏茶師は永福寺と号して永福寺の境内にあり（旧地は三条室町）　本尊茶師
佛は石像にて長二尺傳教大師の作（昔比叡山の谷にあり又鶏茶師と云ふ旧地は澤あり足ふみく桃下の人澤茶
師と称ず後世訛て鶏茶師といふ風俗せりつゝへの堂の梁の銘に三条室町
水上茶師堂と記し作る　○　鯉地蔵は堂の前にあり由来繁くて略す
西光寺は鶏茶師の小に隣る虎茶師は弘法の作（阿弥陀堂と称ず）
長金寺は誠心院の西向ひ（言堂と云）本尊十一面観音は弘法の作（脇仏観音の長二
清帯寺は西光寺の西向ひあり本尊腹帯地蔵と土佛にて行基作
作なり（懐妊の婦人安産を祈る霊験新）
誠心院は西光寺の隣る（俗和泉式部と云）古は小門一条のほとりあり御堂関白道長公の
草創にて和泉式部も山寺に入て居しなりて住し
本尊は阿弥陀佛脇壇は関白道長公と和泉式部を安置し和泉式部塔軒端梅
彫端の梅は僧師紫藤軒言水の墓あり
風は果を有り海乃音

和泉式部は
紙子の守雅致が
女房にて紙和
歌を以て世に
鳴る美顔
曼殊院門跡の人
なれども美人
四十歳の比
より尼になり
滋賀院乃
小沸堂に
勤して
事本末の資糧を
求むとて
一遍上人誓願なるを聞れ
と弘めの人くれ其霊魂
現れ上人を問答せし論
曲の始まも宜なるべしと

誓願寺は京極三条にあり浄土宗にて源州流義の一本寺なり本願を
天智天皇開基し惠隱僧都と云人
初は和州平城にあり桓武天皇遷都の後上
京し誓願寺通小川の西に住し
源信僧都も暫く住し十餘世の後藏俊
僧正法然上人の法徳に帰入し浄土宗となる
本尊阿弥陀佛は長八尺の坐像
にて佛工賢慶子孫子國兩人の作なり又春日大明神の託宣あり
助け給へ故に春日の神化して人
佛面に朱字の名号あり人皆天智帝の長命なり
脳内に五臓六腑あり希代の霊仏にて奇験を尽す著
額は大覺寺空性法親王の筆
當寺再興大施主大相國
佐々木京極女為二世安楽也と云
六字名は一遍
上人の筆と堂内の壇上丈は天智帝の長命惠隱和尚の筆と安置之重
塔もと和八年に草創にて本尊は薬師なり開山堂丈は法然
上人の像あり釋迦堂には寶冠釋迦佛と安置し鎮守は春日明神五輪
石塔は秀吉公の愛妾松丸殿の墓
法名は春芳院月晃盛久禪定尼と銘し
當寺再興の施主の人櫃那塔と称し
辨慶石は方丈の庭假山の上にあり
八二条京極の西
兵衛町にあり
枸石は小方丈の西
手洗鉢は本ふあり羽二重井は方丈のあふあり當寺に什物は烟除佛舎利
弘法大師より傳来にて又法然上人の二枚起請文墨書と体和尚の筆あり

表具の中縁に紫沈の杜丹にて古仏定町幽之真文小曰 一牧記清文の略
小縁に為笑比の寶に長足を誓願寺切に安楽房しも

傳聞法然活如来　安坐蓮華上品臺

尼入道同愚癡輩　一牧記清文敢奇哉

南无阿弥陀佛

仏外達广虚堂つゝぬとの唯法然の一大事と

存ぜる我が今日より浄土宗に成り仏究賢く

應仁二年二月五日　新勝恩院主　一休判

佛祖所さゝ

當寺の境内に紅梅数株あり如月の比い都下れ人こぞふ来り

未開紅の艶を賞して美觀とす

舍羅

えゝぬ木をかゝひとて梅花

塔中仏殿院に小堂遠別の数寺度あり　八窓こい入

遠別の庭中の風景

絶倫に日長仏院の庭佳境に世に名るし

柳水は西洞院三条の南にあり
いにしへ此所に風風と云柳ありて
人法師道場あり此所を名て
又此所くらに鬼殿と云あり塩
物ふ曰有佐ら宅悪所そうくらを
又朝成が悪霊をうくらもて人明徳
の兵大ふ田禄せしうり

空也堂鉢たたき茶釜を
賣て常住の費とす　村上
天皇の御宇疫癘大ふるわ
つて死るもの数を尽
空也上人ひとり仏僧に教
て像を作り茶釜を煎て茶湯
施わし給ふに供し其茶湯施
法人ふるまふ
疫たちまち平愈
して長者となる
帝これ施感
ありて右例
毎年二三あり
空也堂の茶釜
ふて茶施ふて
あり施服とれば
年中邪気なかれ
帝より初光あた
より今に王服とぶ

空也堂

紫雲山極楽院光勝寺は四条坊門堀川の東敵町にあり空也堂と號す
（門の額空也堂と云）
（黄檗高泉和尚の筆なり本堂の額極楽院は竹内中務卿の筆なり）宗旨念佛宗と稱して本堂に空也上人
自作の像を本尊とし脇士は地蔵毘沙門天の北の脇壇に半像の阿弥陀仏
を安置し是行基の作と又空也上人の像あり（定盛法師香爐の座を以て作る）南の壇上に定盛
法師の像を安置し祢宜上人は延喜帝第二の皇子なりしが塵外の無為
を楽み志願ふかく久しく遂に出家し玉樓金殿を捨て草の小蕭然たる山居に入り麋鹿友と為て閑坐を慰る上人是を憐み真聲を
愛し給ふ事源は一日鹿来りて彼の平定盛と共に遊猟して鹿を持来り
山人の母を討て世俗の上人大に悲傷し其鹿を焼て肉を裂き角を投の
頭に被て常に推乃ち猟者定盛も上人の法徳に帰入し浮屠の教化に倣ひ
妻子を捨て頭に有髪を俗服にして衣鉢を敲て上人に化して和歌
を風して寒中に五三昧市中を巡り俳徊し浄土往生の因を勧る（今空也堂の
境内に八軒あり鉢敲と称し徳正房金光房清松房東坊正徳房利法房南坊西厳
房等なり皆定盛法師苗裔なり常に茶釜を製して業とす）

上人定盛法師ニ示しのたまの
千載
山川は末ゝ流るゝとても身を捨てこそ浮む瀬もあれ　空也上人
極楽をそこなはゝ[illegible]
空也上人出誕ハ延喜三年之　月日　不詳　入寂ハ天禄三年九月十日奥州會津恵川
郷八葉寺ニ往生　年齢八十七
京師ゝ[illegible]東八条ハ十一月十二日ハ十日　毎年當寺ニ於て歓喜踊躍れ念佛を修す　同
寺
[illegible]
衣替鰐口　松尾明神老翁と現し上人に渇しを日頃の神供に繋若狭の法味を
妙法の醍醐味を食せしめ上人に痩衰て風ぐるを通ぜ上人に花経をうく
[illegible]
[illegible]
[illegible]

神泉苑
法成就池

二条御城
二条大神宮
不動堂
天満宮

光坂野の守敏の諸龍を呪して瓶中に入弘法大師の天竺無熱池の善女龍
神を請ぜし天下旱魃れ愁ひと成て感感を蒙り小野小町も和歌を詠じて雨を降
し鷺に宣旨をうけて羽を伏蹲れ官人あれ安くく捕しむ帝御感れおはす又
位を爵を賜りしを山所と又白河院御遊の御船なつらなて感覚あるを鶴氏
池中に入て金覆輪の太刀を銜て上りたり是より銘を鶴丸と云宗徳院御佩
六条判官為義に此御劔を給て名を祇園會もあしに始て弘仁三年より後
帝氏苑中に於て花れ宴あり是花宴の始と存朝文粋に源順の白神泉苑を禁
苑の真ゝ中に紅林地度うして楚麦成胸中に吾緑池水高うして呉江成眼
下に縮むゝ中に星霜漸累り遂に建保の頃より荒廃に及ぶ承久の乱後に
武州の禅門築地成高くして門を堅て修造あり真渡又あれて旧沼絶
とゝ和の比紫れ僧覚雅と云人官に申て再興し真言の霊場となる北野
右近馬場に神泉苑等は終りとなれども是大内裏の遺迹なり

平中行幸の

ちりやゝる神の泉のそのうゝやとるとゝゆれの初め成なり　宗時

不来乎藥師

不来乎薬師を釜の座二条上に西側にあり本尊を比叡山傳教大師
一刀三禮七尊彫刻しの人日本七佛の一体なり往昔義湛法横倉
に一院の設け安置しなる真須尾張国山田郡に何某石馬允明長
なる武士あり明暮尊敬しなに那久之年長又月京孫倉乃義
又所と高名有しの弐流川の義に源を負既又言訳なる人此茶師
一人の僧と化して草をもみあらえの人明長是を拾えしば立所に
疵平癒し本国に帰ると
沙石集に又寛喜二年夏六月ころ気
そげしく極寒のごとくなれば疫病流行し死ることの亜に多し
なれば此茶師院主の夢又告て宣く一切の亢生我前に来べ法病悉
除なれにこぬくくとありしかば感涙袖に余りて世に是を綸旨
むに貴絲拝集し系清の軍疫病忽平癒を後に織田信長岐阜
在住のころ佐藤山城守此茶師を今の所に移をしく天下都鄙
の貴賤数多信仰し霊験ある事委記しぐ

美術書肆
柏林社書店
東京都文京区本郷6－25
電話 811－5445